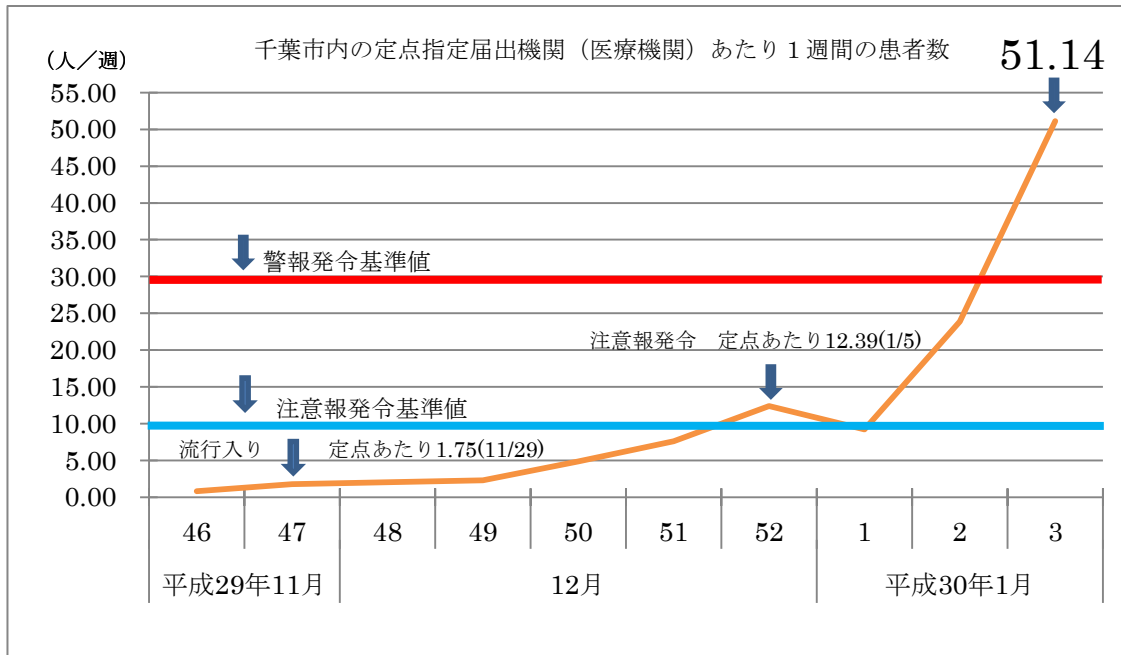


インフルエンザ警報の発令について

平成30年第3週（1月15日～21日）の感染症発生動向調査で、市内の定点あたり患者数が**51.14**となり、国の定める警報基準値30を上回ったことから、本日、インフルエンザ警報を発令しましたので、お知らせします。

市では、1月5日にインフルエンザ注意報を発令したところですが、インフルエンザの予防対策をさらに徹底するよう注意を喚起するため、警報を発令するものです。依然として患者数は増加傾向にあるため、今後の流行状況に引き続き注意が必要です。

なお、インフルエンザは、高熱、頭痛、関節痛など、普通の風邪に比べて全身症状が強く、気管支炎や肺炎などを合併し重症化することが多いので、体力のない高齢者や乳幼児などは、特に注意が必要です。



<感染症発生動向調査による定点指定届出機関（医療機関）※報告数>

インフルエンザ	千葉市			千葉県	全国
	1/15-1/21	1/8-1/14	1/1-1/7	1/8-1/14	1/8-1/14
	第3週	第2週	第1週	第2週	第2週
患者報告数	1,432	669	240	6,292	130,682
定点あたり患者数	51.14	23.89	9.23	29.54	26.44

※千葉市内では28医療機関が指定されています。

<参考>

昨シーズンは第3週（1月16日～22日）に市内の定点あたり患者数が31.36となったことから平成29年1月25日に警報を発令しており、昨シーズンと同時期の発令となりました。

インフルエンザについて

インフルエンザは、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が突然現れます。併せて普通のかぜのような、のどの痛み、鼻汁、咳などの症状も見られます。

小児、高齢者や免疫力の低下している人では重症になることがあり、特に注意が必要です。

○インフルエンザの予防について

- 1 外出時や食事の前には、手洗いをする。
- 2 人混みや繁華街への外出を控える。
特に高齢者や慢性疾患を持っている人は、感染したときに重症化する可能性が高くなります。
- 3 十分な睡眠及び休養をとり、バランスのよい食事をとる。
日頃から、自己の免疫力を高めておくことも重要な予防策の一つです。
- 4 症状のあるときは「咳エチケット」を心がけ、マスクを着用する。
咳、くしゃみの際の「咳エチケット」も感染防止の上では大切です。マスクは、咳やくしゃみによる飛沫及びそれらに含まれるウイルス等の病原体の、飛散を防ぐ効果が高いとされています。
咳やくしゃみなどの症状のある方は、積極的にマスクをつけましょう。

「咳エチケット」

- 咳・くしゃみが出たら、他の人にうつさないためにマスクを着用しましょう。
- マスクをもっていない場合は、ティッシュなどで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけて1m以上離れましょう。
- 鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにゴミ箱に捨てましょう。
- 咳をしている人にマスクの着用をお願いしましょう。

- 5 室内では、適度な湿度（50～60%）を保つ。
空気が乾燥すると、咽頭粘膜のウイルス粒子に対する物理的な防御機能が低下するため、インフルエンザに感染しやすくなります。
- 6 予防接種を受ける。
ワクチンにはインフルエンザの発症をある程度おさえる効果や、重症化を防ぐ一定の効果が見込めます。